

変革・創造・実践

MONTHLY ZEN-NOH GUNMA

県本部通信

2014
April

No. 145

4



JA全農ぐんま



私たち全農グループは、**生産者と消費者を
安心で結ぶ懸け橋**になります。

私たちは「安心」を3つの視点で考えます。

- 営農と生活を支援し、元気な産地づくりに取り組めます。
- 安全で新鮮な国産農畜産物を消費者にお届けします。
- 地球の環境保全に積極的に取り組めます。

事業のうごき 4

営農総合支援センター

- 野菜の生産拡大のための取り組み支援
- J A 営農経済渉外活動の導入・実践にともなう総合的な支援
- 担い手支援のための取り組み
- 食の安全・安心対策への取り組み

畜産農産部

酪農畜産課

- 生乳の計画生産の推進
- 初妊牛導入推進
- 素牛導入推進
- 種豚導入推進
- 渋川家畜市場若齢子牛の集荷推進
(優良 E T 卵産子の活用促進)

米麦特産課

- こんにゃく荒粉・精粉販売推進 (入札の実施)
- きのこ種菌当用推進

園芸部

園芸販売課

- 共計ほうれん草販売 (周年)
- 共計チンゲンサイ販売 (周年)
- 共計味なら販売 (周年)
- 共計山うど販売 (4月末日迄)
- 共計ふき販売 (5月末日迄)
- 共計ブリックスナイン販売 (6月末日迄)
- 県統一規格共計きゅうり販売 (7月末日迄)

販売促進課

- 春野菜販売促進
- もやし類・加工野菜販売促進
- 花き類販売促進

園芸資材課

- ハウス資材確保
- 雪害施設被害復旧作業
- 春夏用出荷資材予約・当用推進
(ほうれん草・きゅうり・ふき他)
- 春夏用青果物段ボール予約・当用推進
- 農業用資材予約・当用推進
- 春夏用野菜種子・苗推進 (ほうれん草他)

生産資材部

花木流通センター

- 売出し・フェアの実施
 - ☆花木流通センター
4月18日(金)～21日(月)
野菜苗フェア
 - 4月25日(金)～5月6日(火)
ゴールデンウィーク菜園フェア
 - ☆愛菜館
4月9日(水)、18日(金)、28日(月)
8の日 お米特売
 - 4月25日(金)～5月6日(火)
ゴールデンウィーク菜園フェア協賛セール
- 造園工事推進

肥料農業課

- セルフブレンド推進
- 茎葉処理除草剤大型規格推進

生活部

生活課

- 太陽光発電推進 (周年)
- 生花利用拡大運動推進 (周年)

施設住宅課

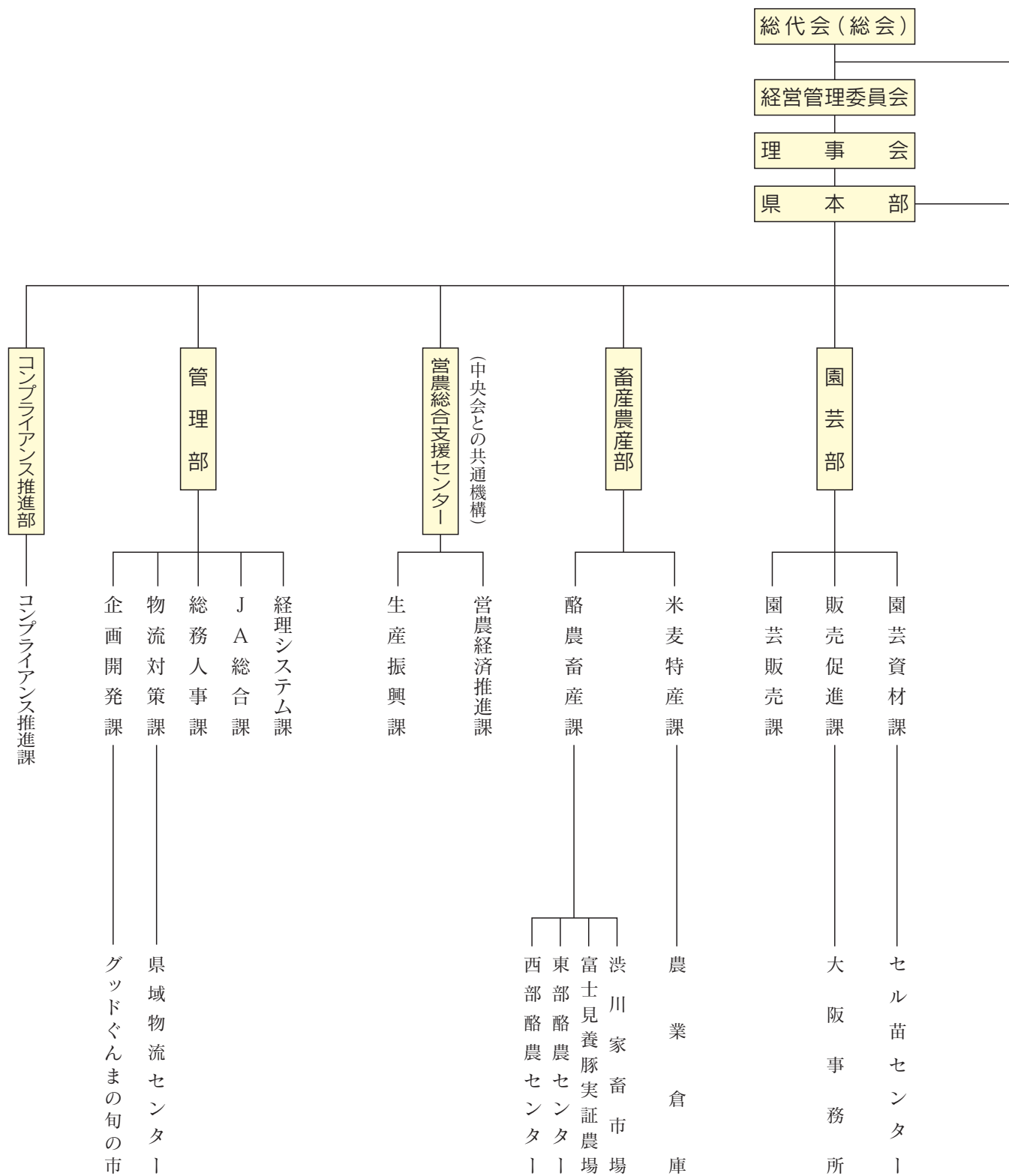
- 賃貸アパート・個人住宅推進 (周年)
- カクイチ物置・広スペースハウス推進 (周年)
- 住友不動産「新築そっくりさん」推進 (周年)

自動車燃料部

ガス課

- 平成26年度ガス器具特別推進
- 平成26年度第1回クミアイガス器具推進

◆平成26年度 全農群馬県本部 組織機構図



平成26年4月1日現在

監 事 会

県本部運営委員会

生産資材部

花木流通センター

新前橋農畜産物直販所「愛菜館」

肥料農業課

大 土 農
間 壤 機
々 断 センタ
分 々 ー
室 ー

農業機械課

農 機 センタ
ー

生活部

生活課

生 葬
活 JA 祭
利 ア シ 会
用 ス ト 東
セ タ 部 館
ン タ

施設住宅課

一級建築士事務所

自動車燃料部

自動車センター

石油課

給 油 所

ガス課

LPガスセンター

次期3ヶ年(平成26年～28年度)ならびに 平成26年度 事業計画書

全農グループ経営理念



私たちは「**安心**」を3つの視点で考えます。

- 営農と生活を支援し、元気な産地づくりに取り組みます。
- 安全で新鮮な国産農畜産物を消費者にお届けします。
- 地球の環境保全に積極的に取り組みます。

全国農業協同組合連合会 群馬県本部

I. 基本方向

日本農業は、農家の高齢化や後継者不足等による耕作放棄地や遊休農地の拡大などもあり、耕地面積や農家戸数の減少による生産基盤の減少が続いています。肥料・飼料・原油など海外供給に依存する生産資材原料は、新興国の経済成長等により需給の逼迫が続き、天候不順や投機マネーの影響等で飼料穀物の相場も不安定な状況が続いています。

一方、国産農畜産物は、政府・日銀の量的金融緩和政策による円安・株高から不況を脱しつつあるものの、依然としてデフレを脱していないことや原発事故による風評被害などから価格の低迷が続いています。このような状況の中、政府はTPP参加を表明し各国と交渉中ですが、「重要5項目」が関税撤廃の例外とされずに参加した場合、農業生産基盤は壊滅的な打撃を受けることが懸念されています。TPP参加を前提とした米の減反政策の段階的な見直しなど、農業政策も大きな転換期を迎えています。

農畜産物流通分野では食の外部化の進行に加え、消費の簡便化・小口化等のニーズが強まっており、食品企業などの農業参入による産地の囲い込みが進んでいます。JAグループとしても、消

費者のニーズに合った農畜産物や加工品の生産を手掛けることにより、農家の安定的な手取り確保ができるような支援を求められています。

また、地域社会では、高齢化・人口減少により集落機能が低下し、買い物弱者の増加やライフラインの確保への不安といった問題が顕在化するなど、地域の活力が損なわれてきています。JAグループにおいても組合員の世代交代がすすむ中、組合員の第二・第三世代や地域住民全体の生活を支え、豊かで暮らしやすい地域づくりが求められています。

これらの環境変化に迅速かつ円滑に対応するため、トータルコストの削減と本部間連携による推進力・販売力の強化など、「全農ならではの」施策の展開や農業生産基盤の維持・拡充に向け、JAと一体となった生産の支援による元気な産地づくりに取り組み、組合員・JAさらに消費者・取引先から信頼される組織を確立し、懸け橋機能を強化していきます。

また、25年度からの新たな事業運営・経営管理方式の下、戦略的かつ効率的な業務執行体制と経営管理体制を確立するとともに、事業拠点の統廃合など経営資源の集約・再配置を行うことで、スリムで強固な組織体制と、事業環境の変化や合併JAの高度な要求に俊敏に対応し得る事業体制を構築していきます。

群馬県本部では上記の考え方を踏まえ、経営理念に基づき、担い手対応の強化、生産者・組合員の手取り最大化、安全で新鮮な国産農畜産物の提供、事業の広域化や一体化など事業毎に最適な事業形態を検討・実践し、組合員・会員への最大奉仕と地域社会の発展に貢献するという使命を達成するため、県域としての事業競争力の強化、県産農畜産物の販売力強化、安全・安心な農畜産物の提供、事業領域の拡大ならびに経営体質の強化が可能となる、次の戦略と体制の構築に取り組みます。

1. 事業競争力の強化

- (1) 県域物流への取り組みなど、低コスト生産に向けた物流合理化体制整備や仕入れ機能の強化・低コスト資材の普及等による生産資材コストの低減
- (2) 生産・販売一貫体制の構築およびJAとの連携による担い手や第二・第三世代等に対する対応力強化
- (3) 県本部の事業改革の着実な実践とJA経済事業改革に対する支援の強化、および農業機械事業・石油事業等のJAと県本部が一体的に運営する事業方式の強化

2. 県産農畜産物の販売力強化

- (1) 卸売市場との連携や実需者との結びつきによる販売力の強化
- (2) 直販方式やIT活用等多様な販売体制の強化と品目を横断した総合販売体制の検討・確立
- (3) バリューチェーンの構築など地域組合員・利用者のニーズを踏まえたサービスの効率的な提供による販売力強化
- (4) 消費者・需要者に支持される農畜産物づくりに向けた生産振興・販売企画の強化

3. 安全・安心な農畜産物の提供

- (1) 消費者に安全・安心な農畜産物を届けるための生産履歴記帳運動等の徹底に基づく県下統一のトレーサビリティシステムの有効活用
- (2) 食品を取り扱うすべての部署・子会社等での表示等に関する日常点検の強化

4. 事業領域の拡大

- (1) 地球環境に配慮した、畜産廃棄物の還元等環境保全・循環型農業生産を通じた農業の展開の支援
- (2) 老後を安心しておくれる、JA高齢者対策事業の展開
- (3) 都市と農村の交流事業など組合員・消費者の変化に対応した事業の展開

5. 経営体質の強化

- (1) 業務内容の多様化・高度化に対応した、業務執行体制の合理化・効率化ならびに人材の開発
- (2) 事業環境の変化に対応した、事業関連施設の経営改善および統廃合の実施
- (3) 子会社等と県本部関連事業部門との有機的連携強化、ならびに効率的かつ適正な運営のための機能の見直し
- (4) 部門損益改善を通じた効率的・合理的な事業および業務体系の構築と、事業部門毎の労働生産性の向上および要員適正化への取り組み
- (5) JA・組合員への支援機能の円滑化・効率化のための機構整備
- (6) 機能を担う主体別に分類した事業毎の事業競争力の強化と効率的な事業方式の実現

【事業3分類】

- ①JA主体で県本部が補完支援する事業
- ②JA・県本部一体化事業
- ③一部機能を除いた県域主体の事業

Ⅱ. 事業方針の概要

1. 営農総合支援センター

JAグループ群馬の営農部門の統合による総合的な県域営農支援体制の強化により、担い手への営農支援を軸とした地域農業振興と安全・安心な農産物の生産体制を確立し、信頼される産地づくりに取り組みます。また、JAのTAC活動の実践と強化に向けた総合的な事業対応に取り組むとと

もに、担い手に対して力強い経営体の育成と確保を図るための取り組みを実施します。

- (1) 生産振興事業では野菜の生産拡大や安全・安心な農産物の生産体制を確立するため、関係機関・県本部各部門と連携しJAの取り組みを支援します。
- (2) 営農経済推進事業ではJAのTAC活動および担当者の育成を支援するとともに、担い手の育成・確保に向けた取り組みを支援します。

2. 畜産農産部

県内畜産事業の振興と生産流通体制の維持・強化を図るため、畜産関連諸団体との連携により、生産基盤維持拡充対策や環境対策等に取り組みます。また、米穀および本県特産物の生産・販売体制の強化と全国本部との連携による事業拡大を図るとともに、流通コストの削減に努めます。

- (1) 畜産事業では生産基盤維持拡充対策や環境に優しい畜産事業を促進するとともに、JAの生産・経営指導の強化を図るため、JAと県本部との一体的事業推進体制と畜産経営支援体制の構築を図り、本県畜産物の販売力強化を促進します。
- (2) 米麦大豆事業では米の「買取方式」の継続実施、民間流通麦の播種前契約、大豆の契約栽培を基本とし、良品質な生産物の販売推進を実施します。
- (3) 特産事業ではこんにゃく販売力の強化・きのこ生産資材の安定供給に努めます。

3. 園芸部

青果・花きの販売と資材供給体制を一元化するとともに、高品質・安全な青果物等の生産を支援し、系統共販による販売体制の強化を図ります。また、営農総合支援センターと協調し、担い手支援対策・新産地育成事業等を実施して生産基盤の強化を図ります。更に、JAと一体となった事業戦略や経営資源の効率的活用等についての検討を進めます。

- (1) 園芸販売事業では県内JA・関係機関等との連携により、県産青果物の安全性に対する信頼の獲得に努め、産地の体制強化と高品質・安全な青果物等の生産を支援するとともに、

一元分荷体制の強化や系統共販体制の推進強化、実需者への直接販売および卸売市場経由の直販事業の拡充強化により、県域総合力の発揮と野菜価格安定事業の充実強化に取り組みます。

- (2) 販売促進事業ではGルート販売(契約的販売)の拡大と消費宣伝活動の強化を図り、県産青果物の地位向上と有利販売に取り組みます。
- (3) 園芸資材事業では仕入れ機能の強化や低コスト資材の普及、および業務の効率化を図り、コスト削減に努めます。

4. 生産資材部

JA組合員の農業経営の確立を図るため、生産資材コスト低減を基本とする生産資材購買体制ならびに推進体制の強化を図ります。また、新鮮で安全・安心な農産物を消費者に届けます。

- (1) 花木事業ではグリーン資材や生園芸を充実し、生産資材店舗への物流拠点としての機能強化を図るとともに、消費者に新鮮で安全・安心な農産物を届けるため生産履歴のチェックや食品表示の日常点検を徹底し、産直店舗の内容充実に努めます。
- (2) 肥料農薬事業では担い手対策・肥料低成分銘柄の推進により、生産資材コスト低減に取り組みます。
- (3) 農業機械事業ではJA・県域農機一体事業運営の実践と機能強化・事業拡大による収支確立を図ります。

5. 生活部

JA・組合員・消費者等のニーズを的確に把握し安心と信頼に応えるため、JAとの連携による推進体制を強化し、事業の普及・拡大に努めます。また、重点実施策の実践と新規事業の提案による対応力の強化を図り組織用品、葬祭、施設・設計、住宅事業に取り組みます。

- (1) 組織用品事業では組合員・消費者のニーズに適応した生活関連商品の提供に努めるとともに、環境保全型・省エネ型商品の取り扱い体制を強化し、事業拡大に取り組みます。
- (2) 葬祭事業ではJA・組合員への信頼に応える

ため、葬儀管理システムによる情報の共有化と総合力発揮による支援体制を構築し、JA葬祭事業の拡大を図ります。

- (3) 施設・設計事業では施主代行方式による新規施設建設と既存施設の補改修等の提案に取り組めます。
- (4) 住宅事業では組合員の資産管理ニーズに応えるため、個人住宅・賃貸住宅の建設やリフォーム等の建設コンサルの実施及び賃貸住宅の入居募集支援に取り組めます。

6. 自動車燃料部

自動車燃料事業を取り巻く環境は、少子高齢化による自動車保有人口の減少、ハイブリッド車、電気自動車の普及に伴う燃料油の需要減少、さらに太陽光発電・オール電化住宅の増加によるガス需要減少等大きく変化しています。このような中、組合員・利用者に対する「安定供給」・「利便性の向上」・「安全・安心・快適」の提供を図るため、JAとの一体的事業体制の構築・拡充による事業基盤の確立と事業競争力の強化に取り組めます。

- (1) 組合員・地域生活者のニーズに適応した自動車・石油・LPガスの事業運営と取扱体制の確立を図ります。
- (2) 自動車事業ではJA整備事業の効率的な運営及びJA間における下取車再販支援に取り組めます。
- (3) 石油事業では県域拠点再編計画に基づき、SS事業の再構築と配送施設の集約を進め、事業競争力の強化を図ります。
- (4) LPガス事業では効率的な運営と事業競争力の強化を図るため、新たな事業体制の構築に取り組めます。

7. 管理部門

合理的・効率的な管理により、充実した事業展開が図れるよう事業部門の補完・支援に努めます。また、コンプライアンスの徹底やJA経済事業改革や県産農畜産物の販売力強化の支援ならびにJA・会員への対応体制を維持し、全国本部との重複機能の削除や広域化・システム化などによりスリム化を図ります。

- (1) コンプライアンスの推進では県本部(子会社等含む)におけるコンプライアンスの徹底による消費者・生産者・取引先からの更なる信頼獲得やリスク管理体制の確立と内部統制システムの有効な運用に努めます。
- (2) 消費者に安全で新鮮な農畜産物を提供し、信頼される事業者としての責務を果たすため、食品の品質・表示に係る管理を徹底します。
- (3) 物流では中部物流センターを基幹拠点として充実させるとともに、営農や生産資材部門と連携を図ることによりJA経済事業改革支援機能を強化し、県内物流合理化体制の構築に努めます。
- (4) 事業環境の変化に対応した直販方式やIT活用など多様な販売体制の強化や品目を横断した総合販売体制の検討・確立を図るとともに、事業関連施設など経営資源の集約・再配置を検討・実施します。
- (5) 広報では群馬県内外の各種イベントや情報誌等により、県内農畜産物のPRと情報の収集・発信に努めます。

Ⅲ. 部門別重点実施策

[営農総合支援センター]

[生産振興]

1. 野菜の生産拡大を図るため、関係機関や各部門との連携を図り、JAの野菜振興のための取り組みを支援します。
2. 安全・安心な農産物の生産体制を確立するため、JAの生産履歴記帳推進ならびに、GAP(農業生産工程管理)手法の普及のための取り組みを支援します。
3. 営農経済情報の収集・提供ならびに優良技術の導入を支援します。

[営農経済推進]

1. JAのTAC活動および担当者の育成を支援します。
2. JAの担い手育成・確保に向けた取り組みを支援します。

3. JAのTAC担当者との連携により、大規模農家・農業生産法人等へのJAの担い手対応を支援します。
4. JAのTAC活動を支援するとともに、担い手への対応を強化し、JA事業の利用促進に努めます。

【畜産農産部】

【酪農畜産】

1. 系統畜産事業の競争力強化と組合員サービスの向上を目指し、JAと県本部との一体的な経営体制の構築に向けた検討に取り組みます。
2. 畜産振興ならびに生産流通事業の効率的な運営をおこなうため、JA・飼料会社・食肉卸売市場・畜産関連諸団体と有機的連携を図り、機能の再構築に取り組みます。
3. 畜産生産基盤の維持・拡充強化に取り組み、高品質で消費者が安心できる畜産物の生産・販売供給体制の強化を図るとともに、的確な個体管理を推進しトレーサビリティの確立を支援します。
4. 畜産環境対策に対する取り組みを支援し、地域社会と調和のとれた畜産経営を推進するため、環境に優しい施設改善・畜産資材等の利用を促進します。
5. 畜産農家経営の健全化を図るため、畜産関連諸団体および子会社等との連携により、JA畜産事業の生産・経営指導体制の強化に向けた支援体制の確立を図ります。
6. JA・畜産関連諸団体および子会社等との連携により、県産畜産物の競争力強化を促進します。
7. 生乳の集配送業務の効率化と組合員サービスの強化を図るため、JA酪農事業の推進体制の見直しに取り組みます。
8. 渋川子牛市場の活性化を図るため導入育成牛の普及・推進に取り組みます。

【米麦特産】

1. JA米の拡大や「買取方式」継続実施により実需者との結び付き強化を図り、生産者の手取アップに向けた販売力強化を図ります。

2. 生産者への集荷サービス拡充並びに営農・購買部門と連携した大規模生産者への集荷推進を実施しJAと連携した集荷数量拡大に取り組めます。
3. 新規需要米(飼料用米)の作付拡大および米粉用米・加工用米の定着を図り、主食用米の計画生産を通じた水田機能の維持に取り組めます。
4. 実需ニーズに見合った適地・適品種等の良質麦の計画生産を推進し、民間流通麦の作付面積・生産量の維持と取扱強化を図ります。
5. 大豆の契約栽培等の計画的な販売による需要の確保と需給調整機能の発揮により、生産者手取りの確保を図ります。
6. 袋資材では低コスト化・省力化・環境対策に取り組むとともに需要構造の変化や事業再編に対応した購買力強化を図るための施策を展開します。
7. こんにゃくの生産維持と取扱の拡大を図るため、加工対策(荒粉・精粉)の強化による通年販売と製造業者向け生ずり用生玉の販路の開拓を進め、有利販売に努めます。
8. 乾しいたけ販売体制の合理化を進めるとともに、きのこ経営向上のための生産技術指導の強化と生産資材の安定供給に努めます。

【園芸部】

【園芸販売・販売促進】

1. 卸売市場販売の強化
 - (1) 系統共販体制の強化と共計販売品目の拡充強化を図ります。
 - (2) 卸売市場との連携を深め、Gルート販売(契約的販売)の拡充強化を図ります。
 - (3) 県行政と連携を図り群馬県産青果物・花きの消費宣伝事業の充実強化を図ります。
 - (4) 関係機関と連携・協調し、需給調整事業の効果的・効率的な実施に取り組みます。
 - (5) 安全・安心に関わる情報の定期的発信に努めます。
2. 直販事業の強化
 - (1) 実需者への直接販売及び卸売市場経由の

直販事業の拡充強化を図ります。

- (2) 全農グループ直販施設（JA全農青果センター等）と連携し付加価値を高めた販売強化を図ります。
- (3) 加工・業務向け販売について、加工事業者等と連携し、新産地育成を踏まえた原料供給を行い、生産・販売一体となった仕組みを構築します。
- (4) 営業活動の充実と顧客管理の強化等により、実需者との関わり合いを深め、直販事業の拡大を図る体制を構築します。

3. 生産振興対策

- (1) 生産基盤強化の支援を行うとともに、JAと一体となった事業戦略や経営資源の効率的な活用等を進めます。
- (2) コンテナ流通等(バラ集荷・規格の簡素化も含む)を積極的に活用し生産者の労力軽減対策を実施します。
- (3) 生産履歴記帳の徹底、残留農薬自主検査の推進により安全・安心な青果物生産を促進します。
- (4) 野菜価格安定事業の推進と交付予約数量の適正化を図り農家経営の支援を行います。

[園芸資材]

1. 販売事業との連携強化により、出荷資材の規格統一や新素材・機能資材の導入提案を実施し、事業拡大を図ります。
2. 低コスト資材や環境問題に対応する資材の普及推進を図ります。
 - (1) 農業資材（生分解マルチ・省エネ資材）
 - (2) 包装資材
（リターナブルコンテナ・PLAパック）
 - (3) 段ボール資材
（新形状・省力型・低コスト原紙）
3. JA別資材担当者研修会等の実施により、推進力強化に取り組みます。
4. 野菜・花き産地に適した種苗事業の拡大を図ります。
5. セル苗センターの効率的運用により、健全優良苗の安定供給に努めます。

[生産資材部]

[花木流通センター]

1. 花・鉢物、野菜苗、植木など県内優良生産者を中心とした生園芸の内容充実と資材の大量購入のメリットを活かし、仕入の強化を図ります。
2. 新鮮で安全・安心な農産物を消費者に届けるため生産履歴をチェックするとともに、産直農家および県内有名産地の野菜を集荷品揃えた産直店舗の内容充実を図ります。
3. 消費者に安心して購入していただくため、食品表示の日常点検を徹底します。
4. 消費者とJAグループ・生産者の接点を深め栽培講習会・収穫体験・親子食育教室などの事業を実施します。

[肥料農薬]

1. 肥料
 - (1) 土壌診断に基づき低成分銘柄等を普及・推進し、施肥コスト抑制に取り組みます。
 - (2) 担い手への対応強化と生産資材コストの低減を図るため、肥料満車直送等を推進します。
 - (3) 大口農家・生産法人等に対して担い手対策を実施するとともに地域に適した肥料（セルフブレンド）の推進を実施します。
 - (4) JAの営農経済渉外担当と連動した農家訪問推進JAの拡大を図ります。
2. 農薬
 - (1) 生産資材コスト低減と大口農家・生産法人等の担い手対策として系統独自剤・ジェネリック剤・農薬大型規格品等の普及推進を強化します。
 - (2) 環境保全型農業を推進するため、生物農薬や交信攪乱農薬等、環境に優しい薬剤の取扱を拡大します。
 - (3) 農薬適正使用と安全防除を推進します。

[農業機械]

1. JA・県域農機事業一体運営の機能強化による事業拡大と収支確立を図ります。

2. JAグループ独自型式等の重点機種対策による安価な農機の取扱拡大を図ります。
3. 中古農機の取扱体制の強化を図ります。
4. 農機レンタルの実証事業とモデル作りを実施します。

[生活部]

[生活]

1. 組織用品
 - (1) 太陽光発電システム等の環境保全型・省エネ型商品の取扱強化と総合的な推進体制の構築を図り、事業の拡大に取り組みます。
 - (2) 組織食品は、国産農畜産物の愛用や地産地消品目を取り入れた事業拡大に取り組みます。
 - (3) JAと連携した推進体制を構築し、組合員の資産保全(シロアリ防除・瓦補修等)の事業に取り組みます。
 - (4) 健康関連商品への取り組みを強化し、高齢者福祉事業の拡大を図ります。
 - (5) JA直売所間連携による品揃えの充実と店舗運営の取り組みを支援します。
 - (6) 新たなJA生活事業の実践運動(JAくらしの宅配便の導入・利用者懇談会の設置等)に取り組み、JA生活事業の体制強化を図ります。
2. 催事
 - (1) JA総合事業の特典を備えた葬儀会員制度の加入促進と葬儀施行件数の拡大の取り組みを支援します。
 - (2) 多様化する葬儀ニーズに対応したJA葬祭事業の取り組みを支援します。
 - (3) JA葬祭会館の運営を支援し、JA葬祭事業の維持・拡大を図るとともにオリジナル供物・生花等の関連事業の取扱拡大を図ります。
 - (4) 顧客管理データを活用した関連用品(墓碑・法事・ギフト等)の拡大を図ります。
 - (5) 職員教育を徹底し接遇マナー等の向上を図ります。

[施設住宅]

1. 施主代行の計画作成から設計・施工管理にいたる総合的機能を発揮し、低コストで合理的な施設建設に取り組みます。
2. JA等の既存施設の補改修等の提案を実施し、施設の有効活用を進めます。
3. JAカントリーエレベーターの施設診断を行い、補改修・機械更新の提案を実施します。
4. 賃貸住宅の系統仕様基準を基本とし、入居者ニーズに合った賃貸住宅建設に取り組みます。
5. 組合員の資産活用に応えるため、相続対策セミナー・土地活用セミナー・相談会等の窓口相談機能を強化し、事業の拡大に取り組みます。
6. 賃貸住宅の経営安定のため、巡回点検、管理会社との定期的な対策会議、大手Web検索サイトへの空室物件掲載等を実施します。

[自動車燃料部]

[自動車センター]

1. JA自動車整備事業の強化を図ります。
 - (1) 整備技術(ハイブリッド車、電気自動車を含む)の向上を図り、安全・安心・信頼されるアフターサービス体制の構築に取り組みます。
 - (2) JA整備工場の運営・経営改善の取り組みを支援するとともに、JAと連携強化し整備事業の取扱い拡大を図ります。
2. 自動車販売事業の強化を図ります。
 - (1) エコカーの取扱いを強化し、顧客の維持・拡大を図ります。
 - (2) JA間における下取車再販の情報提供に努めます。

[石油]

1. JA-SSの運営体制強化に取り組みます。
 - (1) SSスタッフの育成を図るため現場指導を強化し、サービスの向上に取り組みます。
 - (2) 事業競争力を強化し、競合SSとの差別化を図り、JA取り扱いシェアの拡大に努めます。

- (3) JASS-NETシステムの情報活用により、事務の効率化と販売力の強化に取り組めます。
- 2. JA-SS及び配送施設の拠点再編に取り組めます。
 - (1) 再編計画に基づいた拠点づくりに取り組めます。
 - (2) セルフSSの設置促進を進めます。
 - (3) 老朽化施設の安全対策として施設改善に取り組めます。
- 3. 物流コストの削減と安定供給体制の確立を図ります。
 - (1) 配送施設の集約による物流の合理化とコスト削減に取り組めます。
 - (2) 民生用・営農用燃料の安定供給を図り、取扱量の維持・拡大を図ります。

[ガ ス]

- 1. 時代の変遷と共に変化する各種家庭用エネル

ギーの取扱と推進体制の強化を図ります。

- (1) 切り替え防止と家庭用新エネルギーの取扱拡大に取り組めます。
- (2) 家庭用燃料転換活動の展開により小売機能強化を図ります。
- 2. 保安対策の強化を図ります。
 - (1) 高機能安全装置付きガス器具・機器・省エネ機器の普及促進を図ります。
 - (2) 系統安全化システム(ガスキャッチ：無線化NCU)の普及拡大により、保安サービスの向上とコスト削減に取り組めます。
 - (3) 保安点検調査体制を強化し消費者に安全・安心を提供します。
- 3. LPガスシステム(供給センター・保安情報管理)の更なる互換性を高め、JAの保安事務の合理化・効率化と迅速な情報提供に努めます。
- 4. LPガス事業の事業競争力と基盤強化を図るため、新たな事業体制の構築に取り組めます。





第7回共乾施設運営管理・環境整備コンクール
(3.6・11 県内カントリーエレベーター・ライスセンター)



第6回ミルクデー
(3.7 館林市内)

■ 安全性の更なる向上を目指して

3月6日(木)・11日(火)、群馬県農協穀類乾燥調製(貯蔵)施設協議会主催による「第7回共乾施設運営管理・環境整備コンクール」が行われました。審査員は2班に分かれ、8JA17施設を巡回し、品質事故防止のための施設の運営管理・清掃・書類の保管状況等について審査しました。優秀な施設については、総会時に表彰予定です。

■ 生乳生産基盤の維持・回復を図る

3月7日(金)、ダノンジャパン(株)主催の「第6回ミルクデー」が開催され、県内の生乳生産者やJA関係者等と共に当県本部も出席しました。当日は、ダノンジャパン(株)の経営方針説明や、福島県の復興農場「ミネロファーム」の進捗状況報告、意見交換等が行われました。



平成25年度石油事業一体化経営委員会
(3.17 JAビル)



豪雪被害に係る野菜生産担当者会議
(3.28 JAビル)

■ 事業強化に向けて協議

3月17日(月)、県内JAの組合長・理事長及び当県本部の関係役職員参集のもと、「平成25年度石油事業一体化経営委員会」が開催されました。会場では、「平成25年度事業報告」「平成26年度事業計画」「覚書の締結」「平成26年度役員体制」についての協議が行われ、全て可決承認されました。

■ 豪雪被害に係る復興支援(青果物の生産・販売対応)を協議

2月28日(金)、県営農総合支援センター主催の「豪雪被害に係る野菜生産担当者会議」が開催され、JA担当者・県・当県本部担当者が出席しました。被災した組合員に対する所得確保のための野菜生産や、生産出荷・販売計画の作成、販売強化策の検討及び、JAの取り組み状況について意見交換を行いました。



in 花木流通センター

春の新築そっくりさん

リフォーム体験会 & パネル写真展

5/9(金) 10(土) 11(日)

3日間連続開催!

開催時間 AM9:00~PM6:00

群馬県内の
施工実例パネル展示

最新水廻りの展示

無料リフォーム体験会

追加費用一切なし

完全 定価制

※お客様の要望による追加などはございます。

建て替えに比べて

費用は 5~7割

で新築同様に廻ります。

屋根・外壁から水廻りまで

まるごと 一新!!

※一棟まるごと内装する「新築そっくりさん」は、建て替えの場合に発生する解体費が不要です。

標準工事で安心の

耐震 補強

※制振ではなく耐震補強です。

38年

8年連続 No.1!!

※リフォーム業界売上
※最上級「住友不動産 新築そっくりさん」
※住友不動産「リフォーム」の最上位です。
※平成13~14年「リフォーム最優秀賞」

28年

耐震 補強

※制振ではなく耐震補強です。

43年

耐震 補強

※制振ではなく耐震補強です。

100年

耐震 補強

※制振ではなく耐震補強です。

会場 花木流通センター お客様ホール 前橋市亀里町1307-1 (地図はP.25)

お問い合わせは
JA全農ぐんま 施設住宅課
☎ 027-220-2294

施主代行 JA全農ぐんま 施設住宅課
 施工 住友不動産株式会社 住宅再生事業本部



みどりの風

放映予定

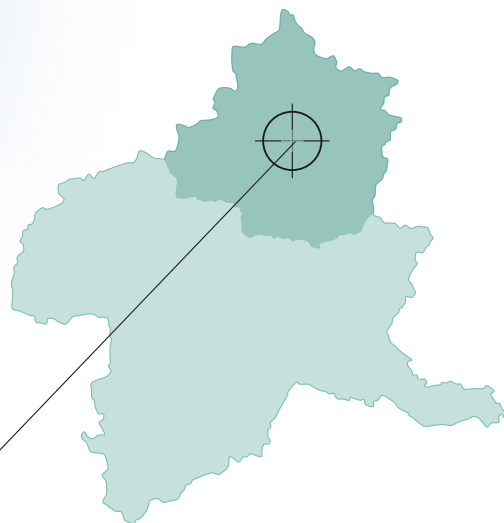
GTV 48ch 放映のお知らせ

番組名/提供	放送日 ※再放送日	時間
放送1100回! 感謝のお便りスペシャル ／ J A群馬中央会	4月28日(月)	PM 9:00 ~ 9:30
	※ 5月4日(日)	AM 8:00 ~ 8:30


三隅 有里子アナ

農業 チャレンジャー

JA利根沼田



若き経営者の思い

JA利根沼田管内 林 直也 さん



林 直也 (はやし・なおや) さん

1980年生まれ、33歳。

栽培面積：レタス……………10ha

ほうれん草……………8ha

小松菜……………2ha

好きなもの：シナモン

これまでの経緯

今回のチャレンジャーは、JA利根沼田管内でほうれん草・レタス・小松菜の栽培を行う林さんです。就農当初のことを伺うと、「幼い頃から両親の手伝いをしていたとはいえ、22歳まで会社員として働いていたため、本格的に野菜の栽培を行うことは初めてでした。作業に関しては、父親の姿を見て覚えました。あの頃は必死でしたね。」と話してくれました。

今(3月)は、ほうれん草の収穫とレタスの定植時期。5年前、父親から経営を引き継いだことを機に栽培面積を拡大したという林さん。周年生産を行うため、冬期は吉岡町等でほうれん草を栽培しています。

チームをまとめる 司令塔として

経営者としての思いを伺うと、「規模拡大に伴い、従業員を雇用し海外実習生の受け入れも行うようになりました。現在は、家族を含む14名で日々の作業を行っ

ています。経営者として歩み始めたばかりの頃は、海外実習生の習慣の違いに戸惑い、一人一人と向き合うことの難しさを痛感した時もあります。そんな時、会社員時代の経験が役に立ちました。自分が部下だった時のことを思い出しながらコミュニケーションを取ることで、互いに働きやすい環境づくりに努めています。」と話してくれました。自らの経験を農業に活かし、チームワークを高めているそうです。

今後の展望

「収量を増やすべく、今後もできる範囲で規模を拡大していきたいと思っています。厳しい時代だからこそ、自分の意思を明確にし、前進するしかないですね。就農して今年で11年目。大変なこともあります。地域の方々や他の農家さんと交流する機会が増えたことは嬉しい限りです。皆で協力し、農業を盛り上げていきたいです。」と話す林さん。目標に向かって突き進む姿に、今後の活躍が期待されます。



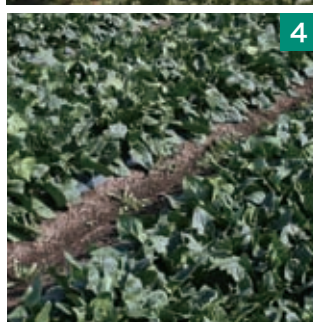
1



2



3



4

1 「経営者となり、責任感が強くなった」と林さん。

2 丹精込めてつくった野菜を多くの人に食べて欲しいそう。

3 ほうれん草の収穫作業を行う従業員と海外実習生。

4 吉岡町のほ場にて。

がんばってまーす!

INTERVIEW

JAたのふじ
営農部 園芸課

宮下 晋吾さん

Profile

みやした・しんご (26歳)

趣味.....音楽鑑賞

特技.....野球

好きな食べ物.....麺類

●職場の皆さんから見た宮下さん

「宮下君は課内唯一の20代。職員一同、若い力に期待しています!!」

「組合員をサポートし、地域農業に貢献したい」

——どうしてJAで働こうと思ったのですか？

実家は非農家ですが、地域に密着した仕事がしたいと思い就職を決意しました。

——実際に入組してみてどうでしたか？

農畜産物のイメージが強かったのですが、様々な事業を幅広く展開していることに驚きました。

——現在の仕事内容を教えてください。

藤岡野菜集送センターでの荷受・分荷、営農指導、部会の事務局業務等を行っています。担当品目は、かき菜・水菜・カリフラワー・ニラ等です。

——仕事をするにあたり、気を付けていることがあれば教えてください。

組合員の皆さんとコミュニケーションを図り、互いに協力合うことで品質や収量の向上を目指しています。営農指導といっても、入組したばかりの頃は教わる

ことの方が多かったのですが、今は自分の意見をもとにアドバイスできるようになりました。知識はまだですが、少しでも役に立てるよう日々努力しています。

——担当品目について、おすすめの食べ方がありますか？

かき菜は、おひたしや炒め物に。水菜は、サラダや鍋にするのがおすすめです。組合員の皆さんが丹精込めてつくった野菜です。まずは、野菜本来の味を楽しんでいただけたらと思います。

——趣味は野球とのことですが。

はい。社会人チームでプレイしており、休日は練習と試合を行っています。

——ポジションを教えてください。

センターです。

——いつから野球を始めたのですか？

小学生の時です。野球は、地域の方々と交流できる場であ

り、年齢を重ねても楽しめるスポーツなので、これからも続けていきたいと思っています。

——最後に、今後の意気込みをお聞かせください。

組合員の皆さんにとって、もっと身近な存在になりたいですね。その為にも、知識習得に励み、信頼される職員を目指しています。地域農業の更なる活性化に向けて、これからも精一杯頑張ります！

熱い思いで前進し続ける宮下さん。お忙しい中、ありがとうございました。



畜産ダイジェスト

酪農情勢

■生乳生産量

農林水産省は3月25日に2月の牛乳乳製品統計を公表した。2月生乳生産量は57万2,501tで前年同月比3.7%の減となった。北海道は29万3,309t（前年同月比4.1%減）で生産量の全国シェアは51.2%となった。

都府県の生産量は27万9,192tとなり、前年同月比で3.3%減少した。

■販売及び乳製品情勢

2月の用途別処理量は、牛乳等向けが30万2,630t（前年同月比0.5%増）、乳製品向けが26万5,027t（ $\nearrow$ 8.2%減）となった。

飲用牛乳等生産量は26万9,033 kl （ $\nearrow$ 0.7%増）で前月から2.4ポイント増加し、内牛乳が23万3,380 kl （ $\nearrow$ 0.6%増）、さらに乳飲料は9万4,009 kl （ $\nearrow$ 0.7%増）で前月より0.2ポイント増加した。

生乳生産量と用途別処理量

（単位：t、%）

区分	月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
生乳	全	650,222	671,097	638,214	632,103	607,577	593,120
生産量	群馬(委託実績)	19,599	19,959	18,641	18,295	17,574	17,052
	本会(委託実績)	6,558	6,640	6,158	5,996	5,665	5,601
用途別	飲用牛乳等向け	324,209	346,307	346,396	349,569	328,957	353,511
処理量	乳製品向け	321,246	320,073	287,092	277,756	273,978	234,854
	その他向け	4,767	4,717	4,726	4,778	4,642	4,755
前年	生乳生産量(全国)	100.1	100.0	99.4	98.1	96.5	98.2
対比	〃(群馬)	100.1	99.8	99.5	99.4	98.4	98.9
	〃(本会)	105.7	106.4	106.2	106.1	104.4	107.7
	飲用牛乳等向け	98.9	98.8	98.6	100.4	99.0	97.9
	乳製品向け	101.4	101.3	100.4	95.4	93.6	98.8
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
	608,496	587,766	616,418	626,346	572,501		6,803,860
	17,591	17,062	17,950	18,314	15,987		198,022
	5,768	5,564	5,805	5,901	5,294		64,950
	350,359	325,513	307,194	313,870	302,630		3,648,515
	253,213	257,466	304,525	307,918	265,027		3,103,148
	4,924	4,787	4,699	4,558	4,844		52,197
	97.0	97.2	97.6	97.2	96.3		98.0
	98.0	97.4	98.5	97.7	91.7		98.1
	103.9	103.1	105.1	103.1	98.9		104.6
	98.3	99.0	98.5	97.9	100.5		98.9
	95.2	95.1	96.7	96.6	91.8		96.9

肉牛情勢

肉牛枝肉相場（予想）

和牛去勢A5 2,050円中心
和牛去勢A4 1,800円中心

肉牛枝肉相場（4月予想）消費が上向く材料がなく弱持合いの展開。消費増税を前に業者が在庫を抱えており、中旬まで鈍く下旬からGW向けに動く可能性がある。

和牛去勢A3 1,650円中心
和牛去勢A2 1,330円中心
交雑去勢B5 1,640円中心
交雑去勢B4 1,340円中心
交雑去勢B3 1,150円中心
交雑去勢B2 1,100円中心
乳牛去勢B2 750円中心

枝肉価格の推移（群馬県食肉卸売市場）

（単位：円/kg、税込み）

年・月		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均・計
和牛 去勢 A4	24-25年	1,604	1,641	1,665	1,629	1,590	1,649	1,682	1,776	1,867	1,695	1,750	1,785	1,694
	25-26年	1,749	1,829	1,901	1,829	1,832	1,896	1,929	1,999	2,076	1,900	1,904	1,902	1,896
	前年格差	145	188	236	200	242	247	247	223	209	205	154	117	201
和牛 去勢 A3	24-25年	1,393	1,482	1,476	1,445	1,349	1,419	1,495	1,592	1,707	1,585	1,615	1,633	1,516
	25-26年	1,627	1,717	1,710	1,664	1,649	1,710	1,780	1,852	1,813	1,658	1,693	1,718	1,716
	前年格差	234	235	234	219	300	291	285	260	106	73	78	85	200
和牛 去勢 A2	24-25年	1,233	1,340	1,315	1,249	1,187	1,238	1,376	1,385	1,466	1,180	1,419	1,479	1,322
	25-26年	1,508	1,472	1,522	1,441	1,405	1,521	1,662	1,579	1,583	1,371	1,516	1,478	1,505
	前年格差	275	132	207	192	218	283	286	194	117	191	97	▲ 1	183

群馬県食肉卸売市場上場頭数

（単位：頭）

年・月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均・計
24-25年	1,270	845	1,167	1,467	1,406	1,383	1,336	1,887	1,668	1,000	1,123	1,025	15,577
25-26年	1,236	929	898	1,126	1,098	1,090	1,162	1,584	1,385	1,132	1,186	1,139	13,965
前年増減	▲34	84	▲269	▲341	▲308	▲293	▲174	▲303	▲283	132	63	114	▲1,612

■素牛動向

- ①全農・取引基準価格（乳去）260～300kg 493円/kg（前月比90.3%）
②F1価格（去勢）250～300kg 1,104円/kg中心（雌）250～300kg 986円/kg中心
③和牛子牛（去勢）574千円中心（前月比100%）（雌）496千円中心（前月比100%）

養豚情勢

枝肉相場関係

豚群馬県食肉卸売市場（上物加重・円/kg）

（単位：円税込）

区分	月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間平均
23-24年(A)		477	460	537	509	473	431	351	384	436	390	393	388	436
24-25年(B)		397	420	479	443	468	425	365	358	418	363	390	404	411
25-26年(C)		450	499	485	498	507	499	466	477	521	458	467	496	485
(B-A)		▲80	▲40	▲58	▲66	▲5	▲6	14	▲26	▲18	▲27	▲3	16	▲25
(C-B)		53	79	6	55	39	74	101	119	103	95	77	92	74

豚肉価格形成要因

豚群馬県食肉卸売市場と畜頭数（自家用と畜は除く）

（単位：頭）

区分	月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間頭数
と畜頭数	24-25年	41,308	41,048	37,617	38,294	38,608	37,444	46,194	47,808	46,869	45,435	40,085	41,826	502,536
	25-26年	42,393	40,315	34,599	40,317	37,843	39,480	47,010	43,823	45,029	43,425	39,985	39,852	494,071
前年比(%)		102.6	98.2	92.0	105.3	98.0	105.4	101.8	91.7	96.1	95.6	99.8	95.3	98.3

肉豚生産出荷予測（全国）

（単位：千頭、前年同月比%）

区分	月	11月	12月	10～12月	1月	2月	3月	1～3月	4月	5月	6月	4月～6月	7月	8月
全国出荷予測頭数(千頭)		1,496	1,552	4,590	1,454	1,341	1,406	4,201	1,448	1,390	1,253	4,091	1,353	1,303
前年同月比(%)		98	102	100	100	100	101	101	100	98	100	99	99	99

■生産動向：農水省食肉鶏卵課の肉豚生産出荷予測によると、4月の出荷見込頭数は1,448頭（前年同月比100%）となっている。その後は5月1,390千頭（98%）、6月1,253頭（100%）と予想されている。豚肉は強持合いの見通し。20日頃からGW向けの手当てが入れば一段上げもある。東京都内の卸会社によると「増税はあるが景気回復も見えるため、GWで外出する人が増えればもう一段上げがあるかもしれない」との見通し。

鶏卵情勢

鶏卵相場関係

■Mサイズ基準値

14年4月230円（見込み） 134%（前年比）

（単位：円）

価格の推移

区分	月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間平均
24-25年(A)		182	168	161	160	157	176	193	209	230	171	190	175	181
25-26年(B)		172	164	155	157	175	211	220	260	280	224	240	230	207
(B-A)		▲10	▲4	▲6	▲3	18	35	27	51	50	53	50	55	26
全国基金	24-25年	12.987	20.88	24.3	24.3	23.886	9.648	0	0	0	18.999	0	9.774	
補填	25-26年	15.714	21.645	24.3	24.3	9.306	0	0	0	0	0	0	0	

※平成24年度鶏卵価格差補填事業については、9月以降補填財源はありません。

■価格動向：3月の平均単価は230円（前年同月+55円）と前年同月を上回り、平成25年4月～平成26年3月期平均は207円（前年同期比+26円）であった。

■出荷動向：生産面では気温上昇に伴い卵重、供給量が安定するが、2月の豪雪による鶏舎倒壊などの影響で全体的出荷量は横ばいの見通し。

■需要動向：前半は消費税増税を控えた3月中の仕入れ分が出回るが花見需要に支えられる。後半はGW向けの加工需要が活発となり、引き合いが強くなる見通し。

卵価要因

区分	月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
加工卵輸入	24-25年	1,781	2,301	2,198	2,403	2,515	2,609	2,762	2,399	1,921	1,838	1,961	1,997	26,685
実績(t)	25-26年	2,283	2,151	1,776	2,084	2,488	1,867	2,201	2,451	2,631	3,060			22,992
前年比(%)		128.2	93.5	80.8	86.7	99.0	71.6	79.7	102.1	137.0	166.5			86.2
餌付羽数	24-25年	7,908	7,874	7,780	7,768	7,007	7,534	7,803	7,238	7,314	7,215	7,317	7,520	90,278
(千羽)	25-26年	7,742	7,767	7,895	7,200	6,896	8,170	7,346	7,464	7,636	7,251	7,569		82,936
前年比(%)		97.9	98.6	101.5	92.7	98.4	108.4	94.1	103.1	104.4	100.5	103.4		91.9

■餌付見込

※農水省は餌付け羽数見込みを公表しないことになったため、今後、餌付け羽数実績のみ掲載することになります。

■価格の推移

(7) 22年:194円
(1) 16年:173円 (4) 19年:169円 (8) 23年:188円
(2) 17年:204円 (5) 20年:193円 (9) 24年:181円
(3) 18年:184円 (6) 21年:175円 (10) 25年:207円

■原料情勢

①とうもろこし (シカゴ定期)

13/14年度産とうもろこしの需給については、3月10日に発表された米国農務省需給見通しによると、供給量は前回発表と変わらず14,781百万ブッシェルとなった。

一方、需要量は、輸出成約高が好調に推移していることを受け、輸出向け需要が増加すると見られたことから、前回発表から25百万ブッシェル増加する、13,325百万ブッシェルとなった。期末在庫は前回発表から25百万ブッシェル減の1,456百万ブッシェル（在庫率10.93%）となる見通しである。

シカゴ定期は、好調な米国産とうもろこしの輸出需要とウクライナの情勢不安等により、相場は堅調に推移している。米国農務省需給見通しでは、下方修正されとの見方があった南米産とうもろこしの生産量が据え置きとなったことから発表後には相場は一時的に下落したものの、その後は引き続き好調な輸出成約にも牽引され、現在5月限は470セント/ブッシェル台後半を推移している。

今後の相場に影響を与える材料として、とうもろこしの作付け面積がどれだけ大豆に移行するのか、また飼料用需要が下方修正されるのかが注目される。

米国産とうもろこしのF O Bプレミアムは、農家売

りが少ないことや輸出需要が強いことから堅調に推移している。

②大豆粕

3月10日発表の米国農務省需給見通しによると、13/14年度大豆需給見通しは、カナダからの輸入量が増加したことにより前回発表より5百万ブッシェル増加し、3,464百万ブッシェルとなった。一方、需要量は輸出向けが増加したことにより、前回発表より10百万ブッシェル増加して3,319百万ブッシェルとなり、この結果13/14年度の期末在庫は前回発表から5百万ブッシェル減の145百万ブッシェル（在庫率4.37%）となった。

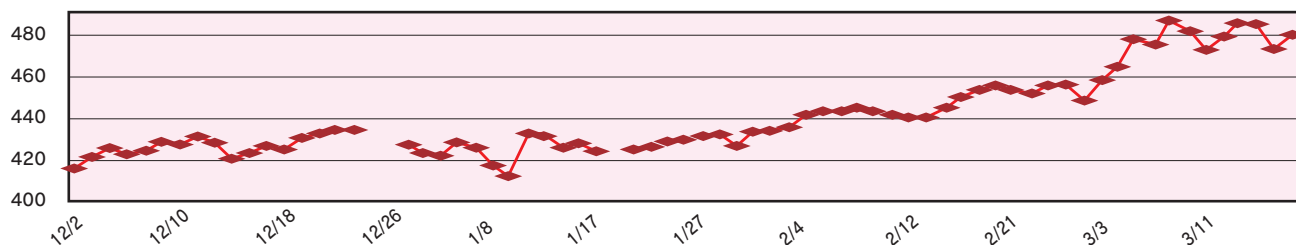
大豆粕のシカゴ定期は、需給見通しが市場予想ほどの強気修正とならなかったこと、中国経済に対する不透明感が強まる中で、中国による米国大豆の大量成約キャンセルの影響をうけ、現在は440ドル台半ばで推移している。

■海上運賃

米国ガルフー日本間のパナマックス型海上運賃は、横ばいから若干の上昇で推移している。弱材料は中国の景気減退懸念、強材料は南米穀物の荷動き本格化が挙げられ、現状は48ドル付近で推移している。

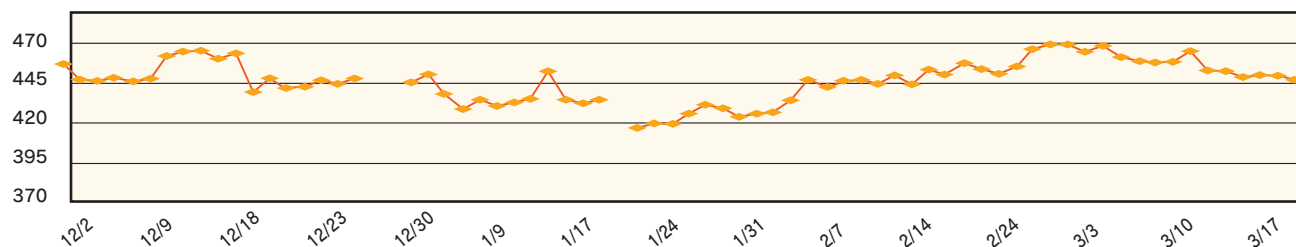
セント/ブッシェル

トウモロコシ 期近限月



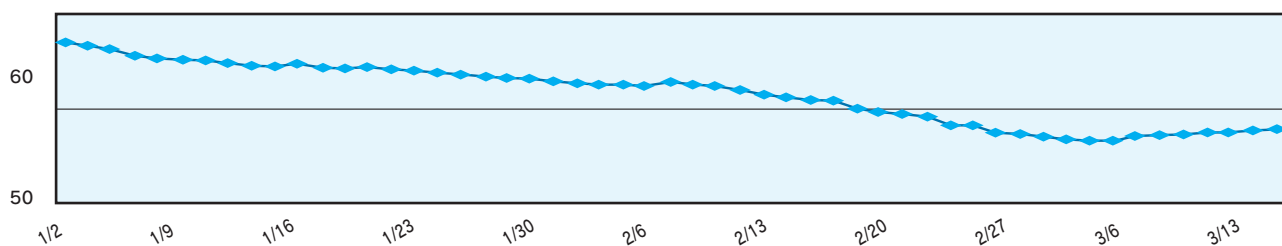
セント/ブッシェル

大豆粕 期近限月



ドル/トン

【海上運賃】



花木流通センター便り

花木流通センターの耳寄りな情報をお届けします！

今年も、春の園芸シーズンがやってきました！！
花木流通センターでは、家庭用から農業用まで、幅広い園芸用品を取り揃えております。そして、この時期特に賑わいを見せるのが「ふらわーらんど」での「母の日フェア」です。大切なお母さんへ、日頃の感謝を込めてフラワーギフトを贈りませんか？皆様の来場を心よりお待ちしております。



5月の売出し・イベント案内

開催日	内容
4月25日(金) ～5月6日(火)	ゴールデンウィーク菜園フェア
5月9日(金) ～12日(月)	母の日フェア【愛菜館】
5月10日(土) ・11日(日)	母の日フェア
5月10日(土) 10:00～	栽培講習会（さつまいも・ねぎ） 【参加費無料・申込み不要】
5月17日(土) ・18日(日) 両日とも 10:00～	栽培管理講習会 (なす・きゅうり・トマトの仕立て方) 【参加費無料・申込み不要】

※売出し・イベントの日程・内容は変更になる場合があります。

花木流通センター

営業時間:年中無休/9:00～18:00

(節電のため7月～9月毎週火曜日定休)

取扱商品

- 園芸資材館/営農 園芸資材等
- ふらわーらんど/鉢花、花苗等
- JA植木コーナー/緑花木、盆栽等
- エクステージ/外構・造園工事等
- ブランド野菜館/産直野菜、農産加工品等
- 外売場/野菜苗、大型肥料・用土、植木鉢等



お問い合わせ先 TEL:027-220-2427 前橋市亀里町1307-1
FAX:027-220-2424

愛菜館

営業時間:毎週火曜日定休/9:00～18:00

取扱商品

- 産直野菜
- 農産加工品
- 店頭精米等



お問い合わせ先 TEL:027-210-7788 前橋市古市町106-1
FAX:027-210-9811

JA全農ぐんま

グッドぐんまの旬の市

1階店舗のご案内

営業時間:毎週木曜日定休/AM10:00～PM18:00
土日は群馬県農畜産物のPRイベント、平日は県特産品の販売をしています。



- 電車/
東武伊勢崎線
「浅草駅」より
徒歩3分
- 地下鉄/
東京メトロ銀座線
「浅草駅」より
徒歩3分

お問い合わせ先 〒111-0032 東京都台東区浅草一丁目34番4号
TEL:03-3844-0830 FAX:03-3844-0837

旬の市 5月のイベント案内

- 5月3日(土)
～6日(火) GW農畜産物加工品フェア
(JAたかさきハム・エコーブ商品)
- 5月10日(土) JA太田市こだま西瓜フェア
- 5月17日(土)
・18日(日) JAたかさき加工品フェア
・三社まつり地酒フェア

※イベントの日程・内容は変更になる場合があります。

『県本部通信』における個人情報の取扱いについて

『県本部通信』に投稿いただいた方の個人情報は、プレゼントの発送やお返事、紙面での紹介に使用させていただきますのでご了承ください。また、これらの個人情報は前記の目的以外には使用せず、ご本人より事前に同意をいただいた場合以外には一切開示いたしません。

自由なご意見・ご感想をお寄せください。

《あて先》

〒379-2147 群馬県前橋市亀里町1310番

「県本部通信」係まで

E-mail: info-gunma@gm.zennoh.or.jp

※JAメール等でも結構です。

プレート
をキャンバスに
見立てて

Art Cooking

Food adviser - 石垣 恵美

1979年から群馬県家の光講師。
FM局等でも活躍中。



ごま風味!

アスパラと桜えびの春ご飯

材 料

4人分 (1人前268kcal)

もち米	1.5カップ
米	0.5カップ
水	2カップ
桜えび	8g
A 白ごま油	大さじ1
酒	大さじ1
塩	小さじ1弱
アスパラガス	1/2束
白ごま	大さじ1

作り方

- 1 洗ったもち米と米を30分程置き、Aの材料と一緒に炊飯器で普通に炊く。
- 2 アスパラガスは塩茹でにし、5mm幅の小口切りにする。
- 3 炊きあがった1に2と白ごまを加え、混ぜる。

